

5000

瑞鶴

軍機

海軍功績調査部長

十月二十七日發行

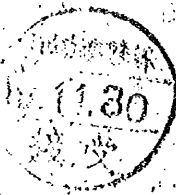
瑞鶴機密第十三號，十一

紙數表紙共七枚

軍艦瑞鶴戦闘詳報

自昭和十九年十月二十日
至同十月二十五日 捷一號作戦

軍艦瑞鶴



9/11

目次

一	形勢
二	計畫
三	經過
四	令達報告等
五	戰果及被害
六	我兵力現狀
七	功績
八	參考

一 形勢

二 計畫

三 任務

(略)

企圖

機密機動部隊命令作第76號

(機動部隊提議作戰要領)

機密機動部隊命令作第77號

四 作戰準備

一 號作戰之戰訓 鑑於此項原由

二 人員之充實

三 兵器之增備

四 機銃噴進砲增備並新設

準備砲(銃)數

本艦裝備全砲銃

四〇口径八九式十二七種砲裝高角砲

九六式二十五糎三聯裝機銃

全 七 單裝機銃

八基 (十六門)

六基 (六〇門)

三基 (三十六門)

通

二十八聯裝噴進砲
九二式七糎七旋回機銃

(2) 通信兵器

1. 大擊前中短波方法測定機各一組裝備
2. 裝備兵器他特ニ準備セシモノ次ノ如シ

TM式短移動電信機

TM式輕便電信機

八九六式空三號電信機

二一式空三號隊内電信機

木

三式空一號電信機

(3) 電測兵器

一三號電探二基新設(電探計四基トナル)

4 水測兵器

捕音器(零式水上聽音機用)(組増備)

八基(三三四用)
五挺(兵三三四用)

二組(用中種短波測定)

二組(用中種短波測定)

六組(用中種短波測定)

四組(用中種短波測定)

二組(3隊内電信機使用)

二組(空三號隊内電信機)

(5) 發着關係

滑走制止裝置 着艦制動裝置用補用品充實

(6) 排水用空氣ポンプ (力量三。秒時使用壓力(5.5)五台)

新設

(イ) 準備セル施設資料

(1) 輕質油ニ依ル被害局限對策、實施

1. 輕質油「タンク」空所、コンクリート補強(八月施行)

2. 輕質油「カス」排出用二馬力排氣電動機増設(三台)

3. 格納庫「カス」排去用電動機、換裝並ニ増備

換裝 三馬力ヲ十八馬力ニ 五台

増備 三馬力 十五台

(2) 浮力保持對策工事、實施

閉鎖防水蓋

閉鎖「マニール」

閉鎖劃壁

(3) 徹底セル可燃物處理

九 九

直接戰鬥中必要ナルモノ以外ハ徹底的ニ陸揚並ニ水線下格納實施

(4) 被害局限施設ノ實施

各部徹底セル防彈施設(コトレット土俵等)

防火用施設

應急資材 兵糧補用品 需品 分散格納

(5) 其他

戰鬥配食用糧食トシテセテ搭載

各種罐詰飯 二五〇人ノ一食分

乾燥飯 全

(三) 訓練

乘員大部ハ一號作戰ニ從事スル精兵ナリシモ長期ニ亘リ兵在泊整
備ニ専念セル一部若輩兵國民兵等ヲ補充アリシ爲八月下旬兵在泊整
内海西部ニ進出スルヤ特別訓練自課ヲ施行徹底セル猛訓練ヲ實施
施線度ノ急速向上ヲ計リ大々作戰ニ備ヘタリ此間新設諸兵器
ノ公試着艦訓練ニ類作業航空戰教練對潛戰鬥教練等ニ從事
出撃ノ際ニテ乘員一同士氣極メテ旺盛術力亦戰鬥即應域ニ達シ

0100

充分自信ヲ以テ作戦ニ臨ミタリ
③ 作戦ニ影響セザル事項

編制

今回ノ357搭載航空兵力ハ653空個有、モニアラズニテ基地進出後、残存兵
カト601空、一部ヲ以テ編制サレタル臨時混成兵力ニシテ統一アル訓練機會
ヲ得ズ出撃セル急航空戦實施上相當、影響アリシモノト思考ス

氣象

決戦海面ニ至ル數言飛行中ハ天候一般ニ良好ナラズ視界不良ニテ索敵
哨戒見張ニ支障ヲ来ルコトヲシ

二五日ニ至リ天候概ネ良好ナルモ尚雲量八程度ニシテ索敵ニ多少影
響アリシモノト認ム

二十五日午前ハ快晴視界六才米激撃戦ニ於ケル見張發見對空戦ニ大
惠マレタル狀況ナリシモ午後ニ至リ雲量五乃至八トナリ對空戦上相當影響
スル所アリタリ

二一〇〇	十月二十日 曇時々小雨	艦内哨戒第三配備申込
〇〇一四		速力十八節
〇九一九		配置二就ク
〇五四九		音響警戒管制
〇六一八		速力十六節
〇七〇二		索敵機 (f _{x6}) 發進
一一九二		索敵機 收容 (f _{x3})
一二〇二		二三。艦方向真雷音聴知面舵回避
		脅威 投射
一二一九		索敵機 (f _{x1}) 收容
一二二〇		艦内哨戒第二配備
一二三七		索敵機 (f _{x1}) 收容
一三四九		艦内哨戒第三配備申込
一四三五		索敵機 (f _{x1}) 收容
十月二十日 曇		
〇四二〇		テイゼル音ラシキモノヲ聴知ス配置二就ク回避

0438	艦内警戒第二配備	
0514	戦闘配置ニ就ク	潜用ニ度方向 潜望鏡発見
0520	右正横雷跡ヲ認シ面舵回避	
0549	索敵機(七機)發進	
0602	艦内警戒第三配備甲法	
1104	第二次索敵機(九機)發進	
1153	四度方向雷跡發見 戦闘配置ニ就ク 取舵回避	
1156	艦内警戒第三配備	
1210	f ₁₁ 收容火破	
1239	f ₁₂ 收容	
1251	速力十二節	艦隊補給開始
1300	艦内警戒第三配備甲法	
1537	対潜警戒機(f ₁₀)發進	
1515	索敵機(f ₁₀)(f ₁₁)收容	
1607	索敵機(f ₁₁)收容	

一七四六	右舷哨戒機 (f2) 收容	
二〇二五	速力十六節	
二〇一〇	多摩哨戒機發見 配置ニ就ク	
二〇一三	右舷二雷跡發見 回避	二〇一七若月敵潜
二〇二五	艦内哨戒機ニ配備	
二一〇〇	艦内哨戒第三配備用法	
十月三日曇		
〇五一九	配置ニ就ク	
〇五三一	五十鈴敵潜發見 面舵回避	
〇五四五	索敵機 (f2) 發進	
〇六〇八	艦内哨戒	
〇六一一	艦内哨戒第三配備用法	
〇六三二	最大敵速即時待機	
〇六三五	四番索敵線飛行機艦隊ノ前方ニ哨戒 味方不明ノ飛行機發見 配置ニ就ク 戰鬥用意	

十月二十四日	一七三三	艦内哨戒第一配備
	〇七二五	艦内哨戒第二配備
	〇八五三	全力一時間待機
	一〇四〇	索敵機 (大) 收容
	一〇五一	索敵機 (大) (大) 收容 (敵情ヲ得ズ)
	一三二七	瑞風 二五〇度 潜望鏡發見 配置就テ 面舵回避
	一三三七	艦内哨戒第三配備トナス
	一六〇一	探知機 英語ノ電話ヲ探知ス
	一六五七	一二五度 方向ノ怪シキ 音源 聴知 面舵回避
	一七一三	音響 戦斗管制
	一七二二	九〇度 戦射
	一七三〇	大 發進
	一九三〇	二四節 即時 三〇節 一時間待機
	一九三五	二二二度 敵潜ヲレキ 電話ヲ探知ス
	二二四五	二〇五度 敵潜ヲレキ 電話ヲ探知ス

0530	配置二就ク	
0545	最大戦速即時待機	
0555	索敵機 (fx) 發進	
0612	戦斗配食	
0638	艦内哨戒第一配備	
0643	秋月二二〇度敵潜ヲ探知 面舵回避	
0658	二二〇度方向浮流機雷發見	
0730	索敵機ヲ敵水上艦艇 (Bx) 見ユスルアリ	
0805	艦内哨戒第二配備	
0846	三四節即時最大戦速 三〇分間待機	
0924	索敵機 (fx) 發進	
	〇八九〇番隊、南々西二五〇哩敵機動部隊	
	(fx) 其他十数隻ヲ電アリ	
	戦斗用立息	
1020	上空直衛機 (fx) 發進	一〇二五遊撃部隊 二艦ヲ機觸接 電アリ

一〇三〇	戦艦配食(應急食)	
一〇四九	艦内哨戒第二配備	
一一二四	攻撃隊即時待機	
	上空直衛(F4)發進	
六一五	攻撃隊(F4)發進	
一二二四	攻撃隊(F4)發進	
一三一八	攻撃隊より吾敵戦機ト交戦中ト電アリ	
一三二三	攻撃隊故障機(F4)收容	
一四一〇	上空直衛機收容	
一四九九	大淀二五〇度方向三五并敵味方不明飛行機探知	
一五一〇	第二軍隊区分トナル	
一五一二	上空直衛機(F4)發進	
一五二〇	艦内哨戒第三配備	
一五四〇	艦内哨戒第三配備	
一五五〇	艦内哨戒第三配備	

敵機探知機
交戦中電アリ

第一		次		戦		闘	
〇七四一	〇七四九	〇八〇〇	〇八〇三	〇八〇七	〇八〇八	八一七	〇八二一
対空戦	上空直衛機即時待機	北 ^北 發艦	敵機大編隊(百 ^百 機程度)左一六〇度高角五度	六〇〇米ニ發見	戰鬥旗ヲ掲ゲ	グラマン艦爆十機ニ二〇度ヨリ二隊ニ分離	砲撃始ム
瑞風ニ三〇度ニ發見	大空ニ三〇度ニヤヲ探知	伊勢ニ二〇度ニヤヲ探知	伊勢敵大編隊ヲ探知我ヨリ方位ニ三〇度推定進路ニ料	日向ヨリ敵大編隊ヲ探知日向ヨリ方位ニ〇度九〇料			
速力二十四節	敵機相次イテ急降下並ニ雷撃ヲ行フ(北 ^北 〇x40 南 ^南 〇x10)	右正横雷跡	左艦尾雷跡	左舷中部爆弾命中(二 ^二 x〇 北 ^北)			

第一 次 戦 闘	
○八三七	第四發電機室多與雷命中(満水)傾斜左九五度 副管制盤右舷低圧配電盤左舷配線室十番電線通路 八番電線通路満水三号泡沫ホニ使用不能 舵取機電源喪失 舵故障 直接操舵実施 左舷後機室満水使用能 左舷前機軸受破損使用不能 熱氣為、在室不能
○八四〇	右舷二軸ノミ使用可能
○八四五	急速注水区刻ニ注水傾斜六度トナル
○八四八	應急電源ニ依リ舵取機運転
○八五〇	送信機全部使用不能
○八五四	上下部ニ番格納庫火災
○八五四	敵飛行機八機右二十度
○八五九	射方待テ
○九二三	火淀(貴艦)通信力ヲ知ラサレ度
○九二七	対空戦斗用具收メ

○九四〇大空六〇度高
○九四〇大空六〇度高
○九四〇大空六〇度高
○九四〇大空六〇度高

第 二 次 戦 闘	
0950	後部彈庫ノ彈ヲ右舷ニワツス
0953	飛行機ノ大群(三機内外)左一六〇度向ツテケル (カチキスガ(西機))
	対空戦斗 前進一杯
0958	射方始ム 本艦乗襲機6機(六機)
1007	右艦尾雷跡二本
1008	射方待テ 敵機悉ク撤退
1022	敵味方不明ノ飛行機(カチキス各一)發見
1032	漂泊旗艦ヲ大淀ニ變更
1045	右九〇度ニ潜水艦ガイルラシイ
1051	長官乗艇終リ
1055	前進原速
1100	將旗ヲ大淀ニ移揚
1102	飛行機ヲ悉ク發見 対空戦斗 前進一杯
1102	射方始メ

0943大淀ヲ發見
三〇〇度方角ヲ探知

35f各母艦着艦不能
上空直衛機九機
着水

第二 次 戦 闘	
一〇四	右七〇度カース f ₄ 発見
一一〇	射方待ッ
一二四	速力十八節
一五〇	前進一杯 対空戦闘
一五八	戦斗應急配食ヲナス 初月ヨリ上空直衛機塔乗員小林大尉以下八名收容 戦果ケラマンガ六機 f ₃ 三機 連墜
二〇九	速力二十節
二四六	飛行機一機 右十五度
二四八	対空戦闘
二五〇	射方始ム
二五五	射方止ム
三〇二	
三〇五	飛行機大群(百機以上) 左二〇度 高角四度 四〇〇〇米 高角ツケル
	伊勢二四〇度方向 Y発見
	白Y 連沈空母三隻 巡洋艦一隻 尚戦中 飛行中 奮闘
	三五九 初月 三〇度方向 Y 探知 一一〇 射 大編隊 近接 シン

第 三 次 戰 闘

第 三 次 戰 闘	
一三〇六	対空戦斗 本艦素龍機 f ₁ 七十機 f ₂ 八十機
一三〇九	射方始々 速力二十四節トナス
一三二一	魚雷左舷ニ命中 傾斜十四度 續々
一三二三	魚雷爆弾命中 至近弾多数 傾斜左ニ二〇度
一三二五	射方止ム 艦内浸水 火災猛烈 處置手段ナシ
一三二七	總員發着甲板ニアガシ 傾斜二二度
一三二八	射方始々
一三三〇	衝寫眞ヲ艦橋ニ安置ス
一三三七	射方待ッ
一三三九	射方始ム
一三四二	射方止ム
一三九八	軍艦旗降下 總員退去 傾斜二三度
一四一四	沈没北緯十九度五七分 東經一三六度三四分

初月ヨリ敵機掃討
公前後ヨリ近接

(2) 飛行隊戰鬥經過 (本艦關係)

(1) 飛行隊編制

十月二十四日

(1) 直掩隊

1. 小林 大尉 (引返上) (空直衛)

2. 佐々木 飛曹長 (引返上)

3. 島下 上飛曹

1. 大川 一 飛曹 (引返上)

2. 井上 中尉

3. 早川 上飛曹

4. 三野 二飛曹

5. 菅原 二飛曹

(2) 戰爆隊

1. 遠藤 大尉

2. 渡邊 飛曹長

3. 南雲 上飛曹

2D

1. 中島 大尉

2. 岩井 飛曹長

3. 高田 一 飛曹 (引返上)

4. 長 飛曹長

1. 松村 飛曹長 (引返上)

2. 石原 上飛曹

3. 片岡 上飛曹 (引返上)

4. 森 飛曹長

3d

1. 村上 大尉

2. 野口 上飛曹 (引返上)

3. 佐々木 二飛曹

1D

伊藤 (飛曹)

金原 中尉 (飛少)

武田 上飛曹

奥田 上飛曹 (引返ス)

佐藤 二飛曹

2D

三浦 飛長 (飛少)

本 飛曹長

池田 上飛曹

小野 一飛曹

加藤 一飛曹 (引返ス)

(3) 誘導隊

小松 中尉

三代 飛曹長

町田 上飛曹

(4) 前路索敵

(標) 中島 上飛曹

(〃) 高橋 同。右

(偵) 岩井 大尉

(〃) 志岐 上飛曹

(5) 戦果確認

藤田 上飛曹

後藤 上飛曹

外山 上飛曹

3.

経橋

1. 索敵隊

日	機種	機数	記
21	f ⁰	六	全機歸ル
22	f ⁰	五	木村中尉(押大東島) 吉野飛曹長(大破) 池田上飛曹(天分) 西上飛曹(不明) 神原少尉(歸ル)
23	f ^r f ⁰	二 五	平道飛曹長 伊藤大尉(歸ル) 高橋(要)一飛曹 志岐上飛曹(比島)
24	f ^r f ⁰	四 五	全機歸ル 榎尾上飛曹機瑞風 小瀬大士上飛曹 山下飛曹長 高橋(為)一飛曹 松山上飛曹 (歸ル) 四機歸ル 田宮小尉機行方不明 土屋一飛曹 坂口上飛曹(歸ル)
25	f ⁰	四	海上(二) 福大士(一) 高橋(三) 杉山(一) 比島? 平迫飛曹長 伊藤大尉(比島) 三機ニコルス 神原少尉機(瑞風)

6200

2. 觸接隊

1) 伊藤 大尉機 (比島)
榎本 上飛曹機 (比島)
志波 上飛曹機 (不明)

3. 前路索敵隊

1D 岩井 大尉機 (不時着台不明)
坂田 上飛曹機 (比島)

4. 上空直衝隊

十月十四日午前

山城 上飛曹
中尾 三飛曹
大坂 一飛曹 (發艦時墜落)
玉野 飛長

2D

山下 飛曹長機 (歸還)
杉山 上飛曹機 (比島)

峰 大尉
井ノ口 上飛曹
松村 一飛曹
菊池 一飛曹

(午後)

窪田飛曹長

一五二二 芹岡上飛曹

發進

松本一飛曹

齊藤飛長

松村飛曹長

一七〇二 佐々木飛曹長

發進

高田一飛曹

大川一飛曹(着艦際轉落救助サレ)

小林大尉

一七〇三 山城上飛曹

發進

中尾二飛曹

(敵觸接機ト空戰ス) 一八一。收容

十月二十五日(午前)

隊長(小林大尉)

〇六〇〇 山城上飛曹

松村飛曹長

高田一飛曹

中尾二飛曹

着水九機

5. 對潜直衛隊

十月二十一日 一五三七

一七四六

癸進

收容

田宮少尉機

榊原少尉機

機

(3) 各部戰鬥經過

(三十五日 卯。八。五九)

第一次戰鬥

砲戰經過

1. 高角砲

一砲群
 右百五十度高角七度三。敵飛行機ヲ捕捉セルモ射撃手スルニ至ラス
 先ツ艦首急降下六機ニ對シ射撃手開始次イテ右正横留撃機四機
 右百二十五度急降下ニ對シ射撃手ヲ行フ射撃手齊射約六十齊射途
 中右前部至近彈依リ從羅針儀故障セルモ間モナク復旧セリ第一戰
 斗後々部彈庫浸水シテ三砲群ニ對シ彈丸三五。發ヲ補給セリ

二砲群

左艦首急降下ノ連続突込ヲ行フ敵飛行機ニ對シ初彈約一。齊射後
 極度旋回続イテ左九十度急降下五機百度留撃手機三機左一二。度留
 撃機八機及編隊ニテ避退スル敵飛行機群ニ對シ射撃手ヲ行フ

三砲群

一砲群ト同ヅク右二六。度ノ大編隊ヲ捕捉セシモ射撃手スルニ至ラス
 先ツ艦尾急降下四機ニ對シ初彈發砲次イテ右九十度留撃手機四機
 右一五。度急降下一。機ニ對シ約六。齊射ヲ射撃手ス

四砲群

艦首急降下四機對シ先ツ発砲次イテ左一。度急降下三機左二。度雷撃機八機對シ射撃ヲ行フ此ノ時左舷後部ニ魚雷命中ノタメニ通信動力電路故障砲側照準トナル六番砲甲板変曲破孔ヲ生ジ使用不能尚揚弾装置砲壞五番彈庫浸水ノタメ彈藥供給不能トナリタル以テ二砲群ヨリ六。発ヲ補給次ノ戦斗ニ備フ

2. 機銃

右三。度急降下二五機對シ右舷各機銃射撃手開始続イテ左艦首急降下五機對シ左舷機銃射撃手開始一三五群ニ至近彈ヨリ同調電路故障砲側照準トナル次テ右舷六機急降下左正横雷撃手機左舷急降下。機同方向ヨリ雷撃機八機右正横急降下五機等ニ對シ各指揮官ハ各受持区域ヲ始メ各群トノ連繫ニ注意シ独断間断ナキ射撃手ヲ行ヒタリ

右百三十度ヨリ急降下ニ依リ四群六番機銃後方ニ爆彈命中戦死ニ名重軽傷四名ヲ出シ動力電路故障六群動力電路故障ヲ生ズ次イテニ群ニ至近彈ヨリ四番機銃破壊銃員ハ六番機銃ノ應援ニ從事ス次イテ左五。度ノ雷撃機ニ依リ左舷後部ニ魚雷命中後部彈藥庫附近浸水供給不可能トナリタルヲ以テ彈藥庫員ハ補強作

3 噴進砲
業ヲ行フ群機銃、動力電路故障ヲ生ス

前部

左舷度急降下。機及艦首急降下。機對シ遂次射撃開始シ約各砲二通、射撃ヲ
ヲ終了シタル頃ニ番砲ノ砲身覆斂、屈曲変形、摩擦ヲ生ジタルタメ、動力電路故
障、戰鬥終了後ハシテ挺子等ヲ以テ人力ヲモ漸ク旋回俯仰可能ニ程度修理ヲ行得リ

後部

左舷各急降下對シ射撃中左舷後部ニ魚雷命中、多直砲側照準ヲシ各
砲殆ト各急降下對シ間断ナク射撃ヲ行

(四) 被害狀況 (別図添)

1. 被爆彈被害 (八三五命中炸裂)

左舷中飛着甲板貫通ニ罐室給氣路ニ作列衣第二防衛指揮所内務科事
務室及附近中下甲板諸室大破ニ番格納庫隔壁一部破壊、煙火発生、左舷汽沫管破壊
石上略同時ニ。艦爆彈整備科事務室貫通下部ニ番補用惣長格納所ニ炸裂、甲
板通路大破、同所内乾物野菜引ス

2. 魚雷被害 (八三七命中炸裂)

四號發電機室下部魚雷命中、浸水管所四號發電機室左舷後部機械室九
十三三三五兵員室十番電線通路士官糧食庫左舷内外軌室第四著艦制動

3. 各部隊被害上處置詳細

勤務室副管制盤室後部輪羅針儀室後部配線室第四冷却機室第一
 二送信室低圧配電盤室第三冷却機室三四號冷気器室後部操舵室
 三號泡沫ポンプ室重油移動ポンプ室五番彈庫外側一四一八二六二防
 水区割内側三六四。防水区割
 浸水量 二。二六噸 傾斜左九五度トリ右一。三八米沈下四三噸

丙 務 科

(小) 應 急 部

魚雷被害ニ依リ第四發電機室三三三三五兵員室臨時ニシテ満水下甲
 板九十兵員室甲板電列水浸水大ナル為同室防水扉蓋及縦隔壁
 補強ヲ実施セリ猶予五兵員室左舷内外軸室五番彈庫浸水大ナ
 ル為第一三四六應急班(一部)未援右諸室外壁補強ニ從事更ニ
 第四應急班及予備應急員四名援助ニ依リ移動ポンプニテ
 九十兵員室及十番電線通路排水作業ニ入カテ注ガタルモ浸水
 量益々増大セル為排水不能トナラテ諸室区割周辺補強ヲ増
 強ス尚三號泡沫ポンプ室第三冷却機室後部兩舷配線室満
 水ニ至リ周壁補強ヲナシ浸水ノ擴大ヲ防止セリ
 爆彈被害ニ依ル上部ニ番格納庫内火災ニ至ル系泡沫管ニ依ル噴

(11)

電機補機部

置手段ナシ

魚雷被害ニ依リ三四区主電路使用不能トナル

1. 舵取機電路敷設

第一区主電路三番應急線接続箱ヨリ應急線約百五十米使

用(所要時間一時間半)

口九番電線通路遮断ノ為ニ五番給電盤ヲ主電路除外

ハ九番電線後部ニテ主電路切断(ハ全部)ト切断(三)主電路ニ区ヨリ

送電ヲ試シントセンモ第二次被害ノ為目的ヲ果スヲ得ズ

ニカ85湯沸器(七番電通)ヨリ六八番高角砲(九番電通)へ應急線

へ敷設

本應急照明ハ左記ノ如ク実施

ハ電氣工場試験用配電盤ヨリ電氣工場附近常夜灯系統

ハ後部四班待機所附近ハ後部兵員室浴室前常夜灯系

統

3 流場通路(上甲板右舷通路)附近ヨリ其附近常夜灯系統
 4 第三防禦指揮所ヨリ二次室前迄後設「ホ」使用二次室前
 及九兵員室前通路
 5 後部昇降機用電動機室前格納庫系統ヨリ十番電線通路
 入口上部

6 三號發電機室内照明灯及通風機電源停止セル爲發電機
 用自動開閉器發電機側ヨリ右舷前後部機械室内

(iii)

注排水及工業部
 魚雷被害ニ依リ

浸水量二。二六噸 傾斜左九五度トリム右八一。三八米
 沈下 四三糎

口處 置

中部管制所各部右注水(二三群及中部群)修正角度五六度

トリム右(四糎)沈下十三糎 注水量五八。噸

之ニ并第一注水實施

(一)注水箇所

前部外側各々ヨリ防水区劃

(二)修正量

修正角度右二度トリテ前。ハ米流下六糎注水量ニ九。噸
 ハ第三弁第一及第二注水ノ安具施スルノ余裕ナシ

前部之水 後部之水 平均之水 傾斜 ニハ幾ハ 排水ノ量
 原状態 8959 10201 9580 0 1242 33200
 修正後 9022 11306 102 50度 2212 36098

砲術科

(一) 高角砲幹部

- 1. 三番群高射器動力電流停止
- 2. 各群從羅針儀故障
- 3. 四群通信電路電源停止高射器甲板傾斜
- 4. 發令所砲測間電話不通
- 5. 發令所内ニ砲煙多量浸入

(二) 高角砲々々

1. 六番砲甲板被彈破孔變曲裝填俯仰施回不可能
 2. 後部左舷魚雷命中ニヨリ四群揚彈裝置電流停止

(三) 機銃砲々々

1. 至近彈ヨリ一三五六群同調電路故障照準裝置使用不能
 2. 六番機銃甲板爆彈命中銃負二名戦死重軽傷四名

④ 噴進砲々台
左舷後部魚雷命中ヨリ彈庫浸水使用不能ハ群同調電口故障

前部噴進砲覆鍍變曲シテ俯仰ニ摩擦ヲ生ジ動力電口故障
後部噴進砲動力電路停止

通信科

① 第一送信機室

魚雷被害ニ依リ電源停止副管制盤ヨリ浸水在室不可能トナリ
タルヲ以テ送信機具ハ第一送信機室ニ他ハ第一受信機室ニ分離セリ

② 第一送信機室

第一次被害後約十ノ間電源アリシモ漸次低下シ遂ニ電源停止
セル為應急電信機ヲ発動スルモ激動ニ依リ電波調定不可能
ナルヲ以テ丁M式短移動電信機ヲ準備中ニ受信短五號送信機
使用可能トナリタルヲ以テ一時中止航空之機短波(六八六五ケ)ヲ短艇甲
板ニ調定セリ

③ 無線調整室

右舷後部至近彈ニ依リ空中線全部切斷落下又魚雷命中中ニ
依リ艦内電源斷トナリタルヲ以テ直ニ應急灯ヲ点灯シ應急
空中線(受信機用)ニ依リ一ノ電波調定中ニハ本ノ長尺又ハ一ノ長尺

九六式空三號受信機ニ依リ四五ケ待受開始ヲナスト共ニ應急送信機
 準備ヲナシ(予備準備シオキタルモノハ衝撃ニ依リ殆ト全部切斷セリ)
 即九六式空三號ニテ六八五ケ(甲短)九六式空三號改ニテ九六五ケ(GF短
 波)ヲ調定後部短艇甲板ニ九六式空三號ヲ裝備ス 三九五

(iv) 第一電諾室第二電諾室第三電諾室

一送二送ノ電源斷トナリタルヲ以テ各電諾室共受信感度良好ナルモ
 送諾不良ナリキ但シ一式空三號ヲ使用セル電ノ三四七五ケ(隊内
 電諾)終三電ノ三八二五ケ(一般超短波)ノ終始連絡良好ナリキ
 送信機使用不能ナルヲ以テ直ニ應急送信機ナル一電ノ九六式空三號
 一電短波ヲ二電ノT-M短移動電信機ニ六八五ケ(甲短)ヲ調定
 使用セリ 其他各室共被害極メテ輕微ニシテ一送二送ノ外ハ
 總テ良ク冷靜沈着ニ戰鬥配置ヲ守リ通信實施ハ極メテ圓滑ニ
 行ハレタリ

航海科

(i) 操舵室

取舵一杯ノ時魚雷命中ノ大震動アリ舵戻ラズ舵取機停止ス直ニ
 直接操舵ヲ令ソ艦橋↓三六ノポケット間手旗信流ヲ直接操舵ヲ
 實施ス兩舷制舵裝置置試スニ異狀ナキヲ以テ第二系統(主舵)ニ

ニ切換ラ 副舵ハ直接操舵ヲ暫時主舵ニ合セ操舵約一時間後制

飛装置置ニ転換

(ii) 主舵取機室

大音響大震動ト同時ニ右舷電路断トナリ一ニ號舵取機ヲ右舷電
源ニ切換ルモ一時停止セリ直ニ起動スルモ瞬時ニシテ左舷電路絶
故ニ豫備電源ニ切換ヘ操舵室ニ連絡スルモ通信不通ノ多操舵
室被害アルモノト判断シ直接操舵トナシ伝令一名ニ六作業員控所
ニ派シ應急操舵通信ニ依リ暫時直接操舵ヲ操舵ス 約十分
ニシテ電話電源復旧ニ依リ制舵装置ニ切換ヘリ電気部員ト協力
約二時間ニシテ應急配線引終リ供給電源ニ切換ヘリ

(iii) 副舵取機室

大震動ト同時ニ右舷電路絶セル故左舷電路切換ヲ瞬時ニシテ左
舷電路絶セリ故ニ蓄電池ニ切換ルモ間合ハス一時停止セリ直ニ起
動(一號ノミ) 主舵ハ一名派シ假設電聲管ヲ導キ連絡ヲトルニ六
作業員控所ハ一名派シ操舵室ト連絡ヲトル命ニ依リ直接操舵
トナス制舵装置ヲ試シ制舵装置置ニ切換フ

(iv) 前部轉輪室

大激震ニ依リ電源絶轉輪停止 各部連絡不通ニ依リ應急

飛行科 (整備科)

(i) 制動機

1. 爆彈被害ニ依リ四番制動機室浸水セル付キ應急員ト協力補修ヲ
ナシタルニ右配具眞ヲ退出セシム

2. 魚雷被害ニ依リ五八九十番制動機室電灯消ス八九番制動機室
隔壁亀裂浸水ス六番制動機室内重油計測孔ヨリ海水噴出ス

(ii) 昇降機

1. 寫眞室通路爆彈被害ニ依リ二號昇降機室電路断線使用不
可能トナル

2. 魚雷被害ニ依リ三號昇降機室電路電源断トナリ使用不可
能トナル又左舷後機破壊浸水ニ依リ蒸気基弁開閉不可能トナル

3. 爆風ニ依リ下部ニ番格納庫前方防火鏡扉昇降機室側ニ倒
壊ス一號昇降機爆風ニ依リ昇降台約十五度傾斜シ高速運轉

不可能トナル低速ヲ飛行甲板上部格納庫間運轉可能(但シ上
部格納庫着床面迄下ラス(約一米上方ヲ停止ス

(iii) 冷煙ホシフ

爆彈被害ニ依リ第二防禦指揮所ホシフ空間電話不通トナル

(iv) 炭酸瓦斯消火装置關係

1. 爆彈第ニ搭乗員室及寫真室通路及第二防衛指揮所ニ各ニ発宛直撃ヲ被彈ニ依リ管系統并關係殆ト破壊ス

(v) 後部爆彈庫

魚雷命中ハ兵員室ニ滿水ノ多動力使用不能爆彈庫出入口通行不能トナル

機関科

(i) 被害前ノ機関ノ狀況

總罐汽釀主四軸運轉速力ニ戰速(黒十七)同轉數(二九)

諸管系戰斗区分

(ii) 機関科關係主要被害箇處應急作業ノ概要

1. 八罐室給気口(左舷)直上ニ爆彈(命中)ニテ左舷後部機械室後部

(四) 流発電機室(魚雷)命中

ノ經過概要

八罐室給気口ニ爆彈命中ニテ爆風ニ依リ六八罐室送風機扇車上部金網止金折損シ金網落下セル爲送風機自停シ(六罐室上流送風機ハ異常ナシ)八罐室至急消火六罐室ハ燃燒度ノ低下セル爲蒸気圧力十八磅ニ急降ス続イテ左舷後機室後部ニ魚雷命中左

飛後機ニ四號蒸化器附属ポンプ附近隔壁より重油液が奔入シ来リ大排
 水ヲ密實施セルモ約五分後水面上部蒸板上五。糞ニ達シ在室不可能トナリ
 總員退去シ在室員ハ運轉指揮官命依リ機関科應急員トナリ
 左舷前機室ハ激動ヲ感ズルト共ニ主機械異音ヲ発シ高压ポンプ推カ軸
 受及前後部軸受逃漏ヲ見ル。噴合接手及蓋中圧及低圧ポンプニ至
 ル排気管膨脹接手ハッキン蒸気管注油管等飛散シ瞬時ニシテ眞空四。
 糞ニ急降セルタメ至急操縦弁閉鎖ニ四罐室隔壁弁附非常弁ヲ手動
 ニ依リ作動セシム既ニ蒸気流通風機ハ蒸気圧カ冷シテ起動不可能ナル為
 室内ノ熱気ヲ非除セント努力セシモ電動通風機電源故障ノ為其ノ方法ヲ
 室窓等より(約六度)シ熱射病ヲ倒ル者続出セルヲ以テ「已チナク運
 轉指揮所ヲ右舷前機ニ移セリ」
 此處ニ至リ左舷系ニ軸放棄ノ状態トナリ罐部ニ於テ左舷系四
 罐ハ六八罐室送風機故障復旧ト共ニ。四種継火状態トナシ罐部
 指揮、關係ヨリ罐部指揮所ヲ三罐室ニ移シ右舷系四罐ニ軸
 全力運轉ヲ密實施セリ
 機関科應急班ハ总手機長ヲ指揮官トシテ機械部各罐部ナニ
 名ヨリ編制シ罐室通路附近ニ分散待機シ居リタル處
 被害ニ依リ左舷後機室満水セルヲ探知シ前後部防弾扉蓋

補強ヲ身施ス
 尚左舷前機室熱気充滿セル為罐室通路除毒用通風機
 ヲ利用熱気排除ニ努ム入室可能ノ域ニ達ス
 被害後ノ機関ノ狀況
 速力通信器指令前進一杯ノ指度ニニ節
 右舷四罐ニ軋全カ運轉右舷前後機回轉數ニ五。燃燒度(七五)
 誘轉軋回轉數不明(浸水ニ依リ発信器故障)ニ四六八號罐ニ。
 再燃火

第二次戰鬥 [二十五日 自〇九五三 至一〇〇八]

砲戰經過

一次戰鬥終了ヨリ二次戰鬥開始並約五十分間コノ間一次戰鬥ニ於テ各部ニ生ヅタル多クノ被害ノ修復彈藥ヲ補給移動ニ極力努メテ凡ソソノ可能ナル修理ハ全部之ヲ復旧セルモ尚修理不能ナルモノ相當アリ加フルニ船体ハ六度左ニ傾斜セルタメ相當困難ナル狀況ニ於テ戰鬥ヲ行ヒタルモ未襲機數比較的小ナリシタメ何等ノ追加被害ナクセリ

高角砲

一 群一五。度急降下六機右 三。度急降下三機ニ對シ約三十發射

射撃ヲ行フ

二 群左艦首急降下三機右一〇。度雷擊機ニ對シ射撃ヲ行フ

三 群右一三。度急降下七機ニ對シ約二〇發射ヲ發射ス

四 群砲劍照準ニテ八番砲左六。度雷擊機ニ對シ二十發射ヲ射撃ス

機銃

右二六〇度急降下七機ニ對シ右舷機銃及單裝機銃群射撃開始シ續キテ各龍襲撃機ニ對シ間斷ナク各機銃群射撃効果ヲ發揮シ至近彈

ニ依リ五群十一番機銃的針盤破壊重傷者其名其他異狀ナシ
③噴進砲

前部後部共動力電路ニ故障ヲ生ジタルヲ以テ砲側照準ヲ行ヒ
ルモ元來噴進砲ハ砲側照準不可能ナル之前ニシテ正確ナル目標ノ指示
及照準發射ニ極メテ困難ヲ感ジタルモ克ク各員ハ身ヲ火焰ニ包メレ
テ勇敢ニ射撃ヲ行ヒ各來襲機ニ對シ猛彈幕ヲ展張セリ

④被害

機銃砲台

至近彈ニ依リ十一番機銃照準器破壊

噴進砲

至近彈ニ依リ覆飯表型弯曲シテ人カニテモ旋回俯仰不能トナル

第三次戰鬥 [二五頁 自一三〇六 至一四一四]

①砲戰經過

二次戰鬥終了後約二時間半ニ三〇頃敵飛行機大群ヲ發見續イテ
戰鬥開始船体傾斜シタル為砲戰威力ハ相當減殺セラレ加フル敵
來襲機數ハ極メテ多ク戰鬥開始後間モナリ左右兩舷ニ魚雷命中

ニ依リ機械停止各砲銃ハ凡ル應急手段ヲ盡シテ射撃ヲ行ヒタルモ修余
 益々大ナリ各部被害又大ニシテ戰鬥終期ニ於テハ各砲銃共旋回俯仰
 意ノ如クナラズ僅カニ群高角砲及機銃一部ノミニテ應戰シ得ル状態ニ
 ナリタリ

①高角砲

一 群右舷ヨリ来襲スル急降下雷撃機ニ對シ約八十度者射シ射撃ヲ行ヒ

一 二。高射砲直下ニ魚雷命中セルタメ全電流停止砲側照準ニ移シ最
 後、彈丸打盡ス迄射撃ヲ行フ

二 群左舷各来襲機ニ對シ射撃續行中配線室下部ニ魚雷命中ハ大傾
 斜、後各電路故障砲側照準ヲ行ヘルモ傾斜大ナルタメ旋回不能俯仰

ノミヲ行ヒテ敵機ノ運動狀況ヲ觀破シテ射撃ヲ行フ

三 群右舷来襲ノ急降下及雷撃機ニ對シ約六十度者射シ射撃右舷艦
 橋下方ニ魚雷命中ト共ニ電源全部停止砲側照準トナリ砲側彈藥全
 部ヲ打盡ス

四 群左舷来襲機ニ對シ砲側照準ニ射撃セシモ傾斜益々大ナリ人カ
 俯仰旋回不可能トナリ固定ノ儘目標ヲ未ケタル時迄砲ヲ約十度射シ射

撃ス

(ii) 機銃

各未襲機ニ對シ全機銃群ニ應戰九十九度急降下(三四機)投下シタル
爆彈ニ群照準砲ニ直撃シ指揮官長傳令及見張員戰死續イテ艦中
部魚雷命中ヨリ前後部彈火藥庫附近破孔浸水彈庫ト通信拒
絶彈火藥庫長以下九名行方不明トナル續イテ六番機銃後方ニ直撃
彈ニ番機銃破壊ニ名重傷此間各群凡テ應急處置ヲ以テ最
近射撃ヲ繼續ス

(iii) 噴進砲

前後部共電路故障シ且砲身覆屈曲変形シテ俯仰旋回極メテ重ク
操縦意、如クナラザルヲ各砲ヲ〇度四十五度一三五度八〇度四方向ト急
降下着撃機ニ分散固定シテ備へ砲側壘邊ヲ以テ各其分組方向ノ未襲
機ニ對シ彈幕ヲ張ル如ク發砲シ最末ノ彈丸迄應戰ス

不高角砲

準備彈藥

各砲一基(二門)ニ付

砲尾ハ

三〇

應急彈藥筐

七二計一四二發

詳	別	準備彈藥	供給彈藥	消耗彈藥
一砲	詳	二八四	約七二〇 内三〇〇・八	七六五
二砲	詳	二八四	約六二〇 三砲詳へ	七五三
三砲	詳	二八四	三〇〇 一次戦後三砲詳へ	五八四
四砲	詳	二八四	一〇〇 一次戦後三砲詳へ	三三四
		一三三二	一三三四	二四四六

給藥室 四〇

機銃

準備彈藥

三聯裝一基三付

二四〇〇

一次戦斗前

五〇〇

供給彈藥

一〇〇〇〇發(全機銃詳へ分配)

二次戦斗終了後

二六〇〇〇

一次戦斗

一〇〇〇〇

二次戦斗

三次戦斗

計 五四〇〇〇

一八〇〇〇

八噴進砲

準備彈藥

消耗彈藥

(被) 被害状況 (別圖参照)

(i) 魚雷被害

魚雷調整前右舷側及前部兵員側下方外側ニ命中附近電燈消滅スルト共ニ煙煙充滿シ困難ナル狀況ニ於テ浸水探知中(三)兵外側三四号外側附近及八号後壁附近並ニ艦主舵取機室附近其他魚雷命中ニ主機械舵取機使用不能艦愈々傾斜増大スルト同時ニ下甲板缶室通路附近ヨリ猛烈ニ浸水シ始メ浸水個所探知及下甲板ヨリスル各部處置ニ浸水及猛火ニ依リ不可能ニ状態トナリ中甲板ニテ處置スルニ上リ方甲板ニ上リタル艦内諸動力停止シ處置施シ難キ状態ニ至レリ

六四八(前後部 三三四)
 五九五(前部三〇後部二九五)

(iv) 各部被
砲術科 害詳細

(iii) 高角砲幹部

- 1. 四群高射機破壊
- 2. 全群停電

(ii) 高角砲々台

- 1. 前部彈庫内二重油浸入
- 2. 各部通信電路全部故障

(i) 機銃砲台

- 1. 二群照準裝置破壞指揮官以下五名戦死
- 2. 六番機銃破壊重傷二名
- 3. 各彈庫連絡杜絶行方不明六名

(v) 噴進砲々台

1. 前部各種電流全部停止

通信科

第二受信機室

室内灯消滅應急灯ニ切換テ受信機短絡空中線落下セルヲ以テ
 應急空中線ニ切換スルモ感度ナシ依リテ應急空中線展張スルモ放送系
 等感度大ナルモノハ幸ジテ受信シ得ルモ飛行機如キ微感度ハ受信
 機短絡ニ依リ殆ド受信不可能ナリキ移動電信機ニハ六八五、KC(電燈)
 ヲ調整使用セリ
 其他各室共被害極メテ輕微ニシテ一送ニ送外ハ總員發着甲板ニ
 上ルノ命アル迄良ク冷靜沈着ニ戦闘配置ヲ守リ通信實施ハ
 極メテ圓滑ニ行ハレタリ

航海科

(i) 操舵室

1. 大震動ヲ感ズルト數回最後ノ大震動ニ舵輪動カズ艦内電源
通信装置置全部杜絶セリ

2. 人カ操舵ヲ令スルモ舵取機室連絡不通舵機室ヨリ火煙上リ入
室出來ズ操舵全ク不能トナル

主舵取機室

主舵ニ魚雷命中ト判断ス火煤ニテ入室出來ズ

(ii) 副舵取機室

1. 大震動ヲ感ズルト5回最後ノ激震甚ク予備電源杜絶舵取
機停止ス

2. 二十六作業員控所ト連絡杜絶ニ依リ應急傳聲管ヲ道ナシ爲

防水蓋開キ作業中突然大爆風來リ舵取機附品飛散シ室

内破壊各部ト連絡全ク杜絶シ人カ操舵不可能艦次第ニ傾斜

シ櫃進器音モナク依リテ防水蓋ヲ閉鎖シ總員上甲板ニ上リ

(iii) 前部転輪室

1. 大震動ニ依リ暗黒ト同時ニ電源杜絶室内諸装置破壊セル

シメ閉鎖ヲナシ操舵室ニ至ル

(Ⅳ) 測程儀室

大震動ト同時ニ室内暗黒トナリ諸装置飛散シ使用不能トナリ

(Ⅴ) 測深儀室

大震動ト同時ニ室内暗黒トナリ電源杜絶スルト共ニ諸装置置破壞シ使用不能トナリ室内閉鎖ヲナシ操舵室ニ至ル

内務科

電機部

四六番電線通路浸水ニテ電機自停

一五番電機機燃料ポンプヨリ燃料水シマケヨリ海水漏

出運転不能

注排水部

前後部。頻コヒルガポンプ運転不能 傾斜急激ニ増大

差施スヘナシ

飛行科

(i) 魚雷調整場

大爆發音ニ三回大衝撃手震動三回位ヲ感ガ場内右舷第七飛行科倉庫入口防水扉ヲ吹キ飛バシ火焰(重油ヲク爆発ラシク猛烈ニ場内ニ噴出ス)此ノ際士官副前部動力室、傳聲管ヨリモ火焰噴出ス同時ニ場内消灯 其ノ後ニ三分後再ビ三回位ノ大衝撃手震動アリテ爆彈庫ニ浸水セリ

(ii) 前部爆彈庫

彈庫附近ニ魚雷命中セルモノ如ク庫内ニ居リタルモ、總員斃死セルモノ如ク此ノ際艦ノ傾斜ハ相當大キク動力室ト爆彈庫魚雷調整場下部一番格納庫ニ通スル一傳聲管ハ満水トナリ連絡不通トナル上甲板注水弁ハ電話不通トナル外異状ナシ

(iii) 二番演習爆彈庫第一整備科潤滑油庫 光学調整室 飛行科火工兵器小出庫寫真室一部直撃手彈ヲメ破壊

(iv) 滑走制止装置 左舷カッター甲板下方ニ魚雷命中爆風ニ依リニ番操縦盤破壊使用不可能トナル

(四) 冷煙ポンプ

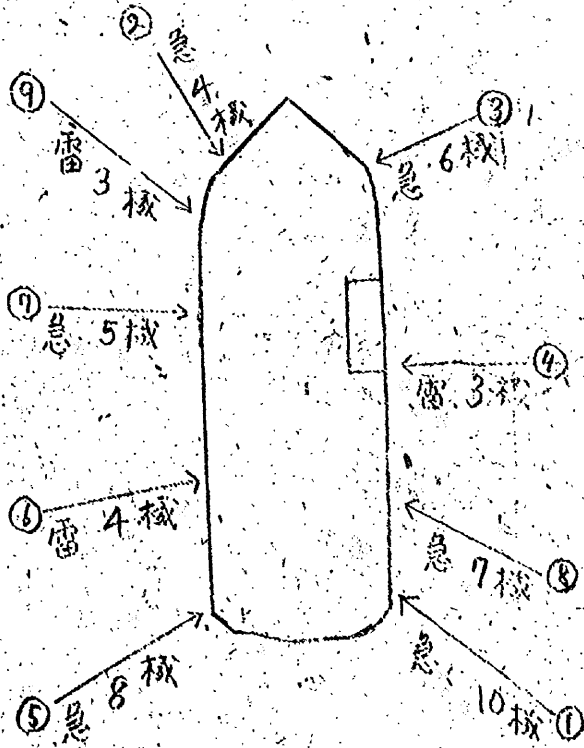
冷煙ポンプ室内重油タンク弁及通路重油管弁ヨリ重油噴出ス
 發着艦指揮所ヨリポンプ起動令ニ依リ起動ス船體左舷ニ
 約十八度傾斜電動機ノ震動大トナル四番制動機室浸水蓋
 々大トナルニ付キ補強作業ニ協力セルモ遂ニ清水ポンプ室側ニ隔壁
 フクレ始ム
 四番制動機室補強破壊重油管亀裂ニ依リ重油噴出ス發
 着艦指揮所ニ連絡不可能トナル

1900

1900

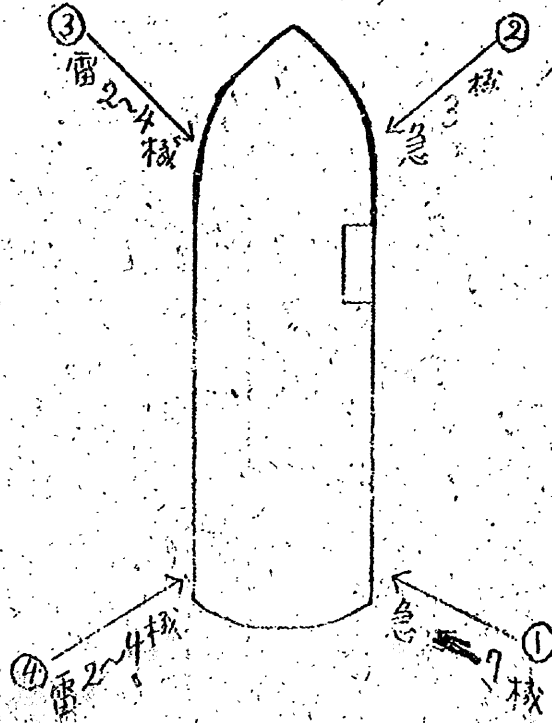
4. 敵機來龍狀況

第一次敵機來龍狀況圖



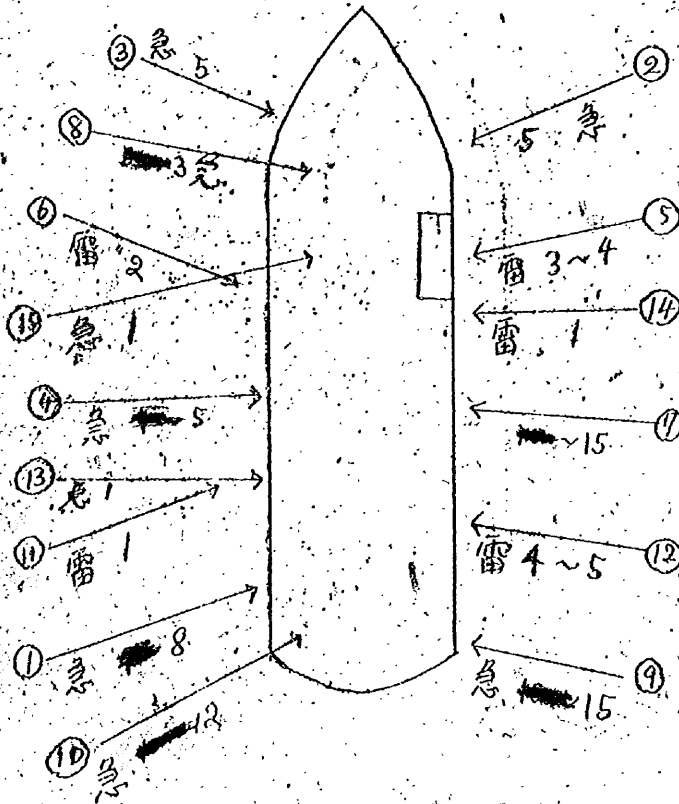
急降下四十機
雷擊機十機

第二次敵機來龍狀况圖



急降下十核
雷撃核六核

115



第三次敵機來龍狀況圖

雷撃機

小
正
機

急降下
七十五機

616

別圖 被害状況

(1) 第一次戦斗 = 於ケル被害 } 7示ス
(3) 第三次戦斗 = 於ケル被害 }

